



## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

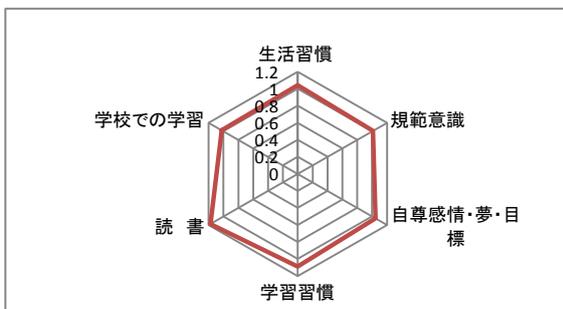
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	言語についての知識・理解・技能や話す・聞く能力は、全国平均を上回っていた。読む能力を問う問題に課題があったので、根拠となる表現を見つけながら読むことを習慣化する必要がある。	同程度である
国語B	全国平均を基準とした正答率が上昇した。読む能力を問う問題に課題があった。目的に応じて、本や文章を比べて読むなどの効果的な読み方を指導する必要がある。	同程度である
算数A	数量や図形についての技能は、全国平均を上回っていた。数量関係を問う問題に課題があった。示された場面を適切に読み取る力を指導し育成する必要がある。	同程度である
算数B	数量や図形についての知識・理解は、全国平均を上回っていた。ある図形を組み合わせてできる図形の形や角の大きさを問う問題に課題があった。図形の操作を繰り返し経験をさせる必要がある。	同程度である

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- ・話し合う活動を通じて「自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」「自分の考えを表現することは難しくない。」と回答している児童の割合が増えた。
- ・就寝時刻、起床時刻、朝食を食べるなどの基本的な生活習慣がより整ってきた。
- ・テレビ等への長時間の接触者やテレビゲームを1時間以上するという児童の割合は、大幅に減少していた。

### 3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 授業では、必ず学習のめあて及びまとめを板書し、必ず振り返りの時間をもつことを全校で取り組んだ。
- また、どの教科でも話し合い活動を位置付け、積極的に授業に取り入れるように研修をした。
- 朝学習で、言語力、計算力の向上の取組を継続して行っている。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 小中連携で「よい子の約束」「学習のきまり」「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、保護者へ啓発するとともに各学期毎に児童に指導を行って徹底を図っている。
- 家庭学習チャレンジ週間を設け、家庭学習の仕方を集中的に指導することで、家庭学習の徹底と内容の向上を図っている。